

N K H

110号

2026年3月

目次

令和7年度企画展	1
令和7年度熱中!感動!夢づくり教育推進事業.....	5
博物館講座	6
新潟県昆虫・岩石標本展示会・新潟県自然科学写真 展示会	7
ネイチャーセミナー	8
長岡れきしまち歩き・潜入!ナイトミュージアム...	9
令和7年度事業報告	10

表紙写真

おさべさんとお菓子の展示

令和7年度企画展「なつかしのおかしとおさべ菓子店—おかしにつまった栃尾の思い出—」では、おさべ菓子店の店主・おさべさんの等身大パネルが、会期中、来館者をお出迎えしてくれました。

おさべさんのパネルは、気軽に撮影できるフォトスポットとしても人気があり、多くの方が一緒に写真を撮影している姿が見られ、会場の雰囲気を明るくしてくれました。奥のガラスケースには、栃尾地域においてさまざまな行事で食された粉菓子の食品サンプル模型を展示しました。そのお菓子を見て、懐かしむ声や大きさに驚く声など、さまざまな反応が聞かれ、世代を超えて会話が生まれていました。お菓子にまつわる思い出が重なり合い、温もりを感じられる展示となりました。

(民俗研究室 加藤穂乃佳)

表紙デザイン：本間正三

解説ノート (67)

〔ケシボウズタケ *Tulostoma brumale*〕



ケシボウズタケは砂地や荒れ地に発生する、径1～1.5cmのキノコです。地中で幼菌が成長し、やがて頭部が地表に出てきます。出てきたばかりの頭部は砂が付着した外皮に覆われていますが、外皮と砂が剥がれ落ちると、淡褐色の内皮が出てきます。頭部の中央には、胞子を散布するための孔が開きます。

長岡市内の海浜で、数mくらいの範囲内に複数のケシボウズタケが砂から頭部を半分くらいのぞかせているのが見つかりました。



何年か観察を続けていく中で、ケシボウズタケが見つかるのは海浜でも砂防林に近く、海浜植物がまばらに生えるような場所であることがわかってきました。砂防林と海浜植物が海からの強風と飛砂をある程度防ぐことで、ケシボウズタケに適した環境となるようです。

いずれも長岡市内砂浜で撮影 (2025年11月)。

(植物研究室 櫻井幸枝)

令和7年度 企画展

「令和7年度 収蔵資料展—初公開資料を中心に—」

展示概要

科学博物館企画展示室で4月26日～6月22日まで開催し、期間中の入館者数は3,886人でした。

当館は、昭和26年（1951）の開館以来、地学、植物、昆虫、動物、歴史、民俗、考古、文化財の各研究室が関係資料を収蔵しています。本展では、各研究室が受贈・製作した初公開の収蔵資料を展示しました。

展示にあたっては、新収蔵の資料を紹介したり、研究室間で連携して一つの展示を構成したりするなど、自然科学と人文科学の総合博物館としての当館の特徴を活かすよう努めました。

主な展示資料（担当研究室）

・11年の軌跡（全研究室）

平成26年（2014）4月のさいわいプラザへの移転・リニューアル後の主な企画展・特別展のポスターの複製。

・チョウ類寄贈標本（昆虫）

甲信越地方のチョウ類を幅広く収集した「藤田コレクション」と、主に県内で採集され、学術誌掲載の証拠標本も含まれる「山田コレクション」。

・長岡市内で採集した考古資料（文化財）

「山田コレクション」の寄贈者が旧三島郡北部の遺跡から採集し、プラスチックのトレイに収納・整理して標本化した縄文時代の石器。

・角屋順一・星野学・小畑典男採集資料（同上）

荒屋遺跡（川口地域）の発見者の一人、星野芳郎の教え子3人が採集し、菓子箱や小引き出しを活用して標本化した石器・土器。

・海揚がり土師器甕（同上）

水深の浅い出雲崎沖で、漁師の底引き網にかかって引き揚げられた土師器甕。

・小貫遺跡出土資料（考古）

小貫遺跡（栃尾地域）出土の縄文時代の石器で、調理具の一種である石皿と祭祀や儀礼に用いた石棒。

・藤橋遺跡採集資料（文化財）

縄文時代晩期の大集落で、国指定史跡の藤橋遺跡（西津町）採集の石鏃を絹地の座布団に縫い付けた標本。

・帝国在郷軍人会に関する文書（歴史）

藤橋遺跡採集資料の寄贈者・遠藤家が創設に関わった帝国在郷軍人会深才村分会の文書。

・加茂農林学校関係さく葉標本等（植物）

大正期の農業高校の授業や実習の中で、見本として使われていた植物標本。

・ヘビ類の液浸標本と寄贈剥製（動物）

シロマダラやヒバカリの液浸標本、動物園等から寄贈されたホンダギツネや外国産鳥類の剥製。

・東坂之上・小原家資料（歴史・民俗）

長岡空襲の被害を免れた町医者・小原家旧蔵の生活道具、昭和24年（1949）の婚礼道具や記録映像など。

・信濃川が運んだ河原の石（地学）

信濃川の上流やその支流から長生橋の西詰付近に運ばれてきた片岩、チャートなどの岩石。当館が撮影に協力したNHKの番組「プラタモリ」で使用。

関連イベント

・ギャラリートーク（展示解説）

4月29日（火祝）（歴史）、5月18日（日）（文化財）研究室、「国際博物館の日」記念イベント）、6月7日（土）（地学）に開催し、のべ64人の参加がありました。

5月14日（水）、6月11日（水）の「かはくミニクラフト」、6月19日（木）の博物館講座では、参加者を対象に展示解説を行いました。



展示風景

（展示担当：学芸係、文化財係）

「長岡カブト・クワガタ学」

展示概要

科学博物館企画展示室で7月12日～9月15日まで開催し、期間中の入館者数は16,885人でした。

夏の人気昆虫・カブトムシとクワガタムシについて、長岡・新潟で見られる全種を紹介しました。カブトムシとクワガタムシは主に森林性の昆虫ですが、種によって好む環境が異なるため、種の多様さは森林環境の多様さを表していると言えます。そのような視点で長岡のカブトムシとクワガタムシの多様さを見渡すと、長岡の自然の特徴や他地域と比べた時の「長岡らしさ」が見えてくるかもしれません。そうしてカブトムシとクワガタムシの多様性から長岡の自然の特色を読み解くことを目的としたのが「長岡カブト・クワガタ学」です。

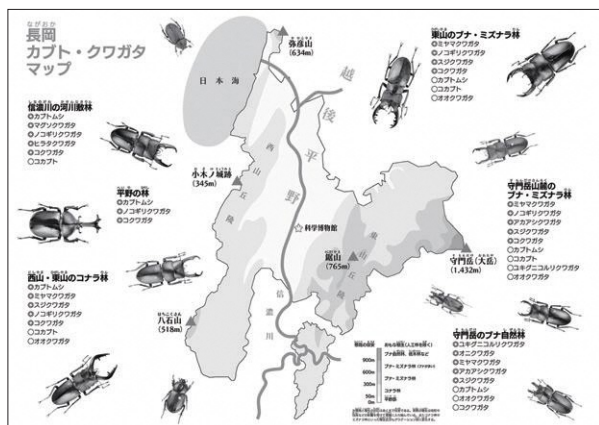
主な展示資料

・雪国のカブトムシ・クワガタムシたち

長岡・新潟の自然の最大の特色は世界一の降雪量を誇る冬の豪雪です。高山を除く世界の中緯度地域で積雪深が1mを超える地域はきわめて局所的で非常に珍しいものです。本州の中でも脊梁山脈を境に太平洋側と日本海側で明瞭な気候の背腹性が認められ、日本海側で見られる豪雪が日本海型ブナ林に代表される雪国特有の森林景観を支配していると考えられます。

カブトムシ・クワガタムシは大型種が集中する熱帯地域のイメージが強く、雪国のイメージとは程遠いように思われます。しかし、温帯の冷涼湿潤な気候に適応したカブトムシ・クワガタムシがいることに加え、意外にも豪雪は低温乾燥から生物を守るシェルターとして機能していることから、実は雪国の森はカブトムシ・クワガタムシたちのすみかとして重要な役割を果たしているのです。

もし新潟県に豪雪をもたらす地形や気象のメカニズムが存在していなかったら、見られるクワガタムシはもっと少ないかもしれません。

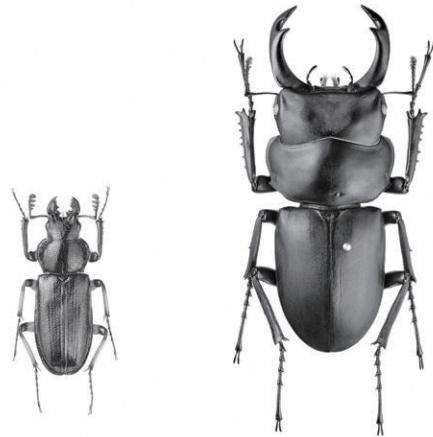


長岡カブト・クワガタマップ

ユキグニコリクワガタ ルリクワガタの仲間は北半球の温帯を代表するクワガタムシのひとつで、北米・ヨーロッパ・日本を含む東アジアに分布します。コリクワガタは4種が本州・四国・九州のそれぞれ異なる地域に分布しており、新潟県のほぼ全域で見られるのがユキグニコリクワガタです。名前のとおり主に秋田県から富山県にかけての豪雪地に分布する種ですが、コリクワガタの中で最も大型になる種で、個体数も多いという特徴があります。広葉樹林の林床に半埋没した落ち枝の中で幼虫が育つため、積雪の保温・保湿効果の恩恵を強く受けているのかもしれません。

ヒメオオクワガタ 近似種がない非常に顕著な日本固有種で、わが国を代表するクワガタムシのひとつです。幼虫は主にブナの大径木の立ち枯れをすみかとし、その分布は日本におけるブナ林の分布とほぼオーバーラップします。自然度の高い豊かなブナ林を象徴する生物であり、雪国の森はまさにヒメオオクワガタの楽園と言えるでしょう。

高標高地の少ない長岡市では従来見つかっていませんでしたが、2026年になってから守門岳で採集された個体が報告されました。雪深く奥まった守門の森には、まだまだ私たちの知らない世界が広がっているようです。



ユキグニコリクワガタ ヒメオオクワガタ

図録「長岡・新潟のカブトムシ&クワガタムシ」

企画展の開催に合わせ、科学博物館の新しい刊行物として本書を発行しました。2025年6月時点で新潟県内から採集記録のあった全17種のカブトムシ・クワガタムシを焦点合成による高精細写真で詳しく紹介しています。生息環境、観察方法、♀の識別、標本作成法なども解説し、県内におけるカブトムシ・クワガタムシ観察の教科書として長く使えるものを目指しました。

(展示担当 昆虫研究室 星野光之介)

「なつかしのおかしとおさべ菓子店—おかしにつまった栃尾の思い出—」

展示概要

科学博物館企画展示室で10月25日～12月27日まで開催し、期間中の入館者数は5,488人でした。

おさべ菓子店とは、戦後間もないころから令和3年まで営業していた栃尾地域の菓子店です。店頭には職人手作りのさまざまなお菓子が並び、なかでも看板商品であった粉菓子「丸鯛」は、栃尾地域の人びとのみならず、市外の人びとにも広く親しまれてきました。

本展は、おさべ菓子店の日常の営みと、栃尾地域でどのようなお菓子が作られ、食されてきたのかを伝えることを目的とし、おさべ菓子店より寄贈を受けた約150点の菓子作りの道具や、食品サンプル模型などを展示しました。

主な展示資料

・食品サンプル模型

店主のおさべさんが作ったお菓子を元に型を起こしたものです。数多くあるお菓子の中でも、主に粉菓子の食品サンプル模型を展示しました。粉菓子とは、加熱処理したもち米の粉である味甚粉・砂糖・あめ水（水あめと水を混ぜたもの）などを混ぜ合わせた生地を木型に詰め、あんこを入れて成形し、打ち出した後に蒸気へ当て、乾燥させたお菓子のことです。栃尾地域では、冠婚葬祭や年中行事など、さまざまな場面で用いられてきました。

展示では、食品サンプル模型に加え、お菓子にまつわる思い出を紹介するイラストや解説パネルを設置することで、おさべ菓子店のお菓子と地域の方々の記憶を重ねて伝える展示としました。

・粉菓子製作の工程動画

おさべさんが粉菓子を作る様子を撮影した映像に解説を加え、粉菓子づくりの工程を紹介する動画として上映しました。木型から粉菓子を打ち出す瞬間や、ふるいを使って彩色する様子などを見た来館者からはその技術に対して驚きの声が聞かれました。

・粉菓子作りの道具

おさべさんが粉菓子を作るときに使用していた道具を展示しました。粉菓子づくりには多くの工程があり、各工程ごとに専用の道具があります。展示では、生地を混ぜる「銅鍋」や形を作るための「木型」、彩色に用いる「ふるい」と「ブラシ」など、工程順に道具を並べ、来館者が作業のイメージを持ちやすいように展示しました。

関連イベント

・見学会「職人の技が光る！巻鯛作りを見学しよう！」

11月3日（祝・月）に開催しました。栃尾地域の菓子店である新保屋菓子店の店主・湯谷紀久夫さんを講師として迎え、栃尾地域で祝いごとにもちいられる粉菓子「巻鯛」の製作を実演してもらいました。参加者は22名でした。

・ギャラリートーク

11月8日(土)、11月29日(土)に、担当学芸員によるギャラリートークを行いました。延べ33名の参加がありました。



展示風景

(展示担当：民俗研究室 加藤穂乃佳)

「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展—極小・雛道具の魅力—」

展示概要

科学博物館企画展示室で令和8年2月13日～3月15日まで開催し、期間中の入館者数は3,646人でした。

長岡藩主であった牧野家にゆかりのあるひな人形やお道具類を展示する本展は、平成26年より毎年開催され、本年度で12回目となります。今回は雛道具をテーマとし、江戸時代後期から明治時代を中心とする極小サイズの雛道具を一挙に展示しました。

武家の婚礼道具を模したとされる雛道具は江戸時代中期頃から雛壇に飾るようになり、ひな人形に合わせて作られました。幕府によってひな人形の大きさに制限がかけられるようになると、ひな人形が小さくなるにつれ道具もサイズが小さくなり、江戸時代末頃には七澤屋にみられるように極小サイズの道具が登場します。種類も豊富で、今では見られない道具が数多くあるほか、大小の刀など男性好みの品もありました。

牧野家ではそれぞれの雛道具の年代やもとの所有者などはほとんどわからなくなっています。ですがどの品にも贈った人、贈られた人がいて、誕生を祝い、成長を願う気持ちが込められています。

主な展示資料

・七澤屋製雛道具

七澤屋は江戸時代後期から明治初期までひな人形・雛道具を扱った店で、江戸の上野池之端に店舗を構えていました。文政7年に刊行された『江戸買物独案内』にも掲載されており、当時の随筆には「世帯を持つより貴し」と評されるほど贅沢な品として名をはせていたようです。その特徴は極めて小さく精巧につくられた雛道具にあり、「大」の形をした牡丹と唐草模様で彩られ、どれも実物に倣った造りをしています。



七澤屋製 提重

・武蔵屋製雛道具

武蔵屋は七澤屋と同じく高級雛道具を扱った店で、東京の浅草仲見世に店舗を構えていました。文政9年に越

後出身の萬場糸次郎が興し、昭和のはじめまで営業していたとされます。雛道具は繊細で華奢な造りで、高砂や鶴亀など絵画的な装飾が特徴です。牧野家では2点確認されています。

・栃尾てまり

「栃尾てまり」は、織物や養蚕が盛んだった長岡市栃尾地域でつくられている名産品です。今回、栃尾てまりの会より35個の栃尾てまりをお借りし、展示しました。松竹梅や鶴亀など縁起の良いモチーフを用いた絵柄には、贈られた人の幸福や無病息災などの願いが込められています。

関連イベント

・長岡藩主牧野家史料館 ミニ展示

連動企画として、さいわいプラザ3階の牧野家史料館でも、牧野家ゆかりのひな人形、雛道具を展示しました。西洋人形や家具、ティーセットなど洋風のお道具を集め、1階の展示と併せてご覧いただけるよう工夫しました。

・ギャラリートーク

3月1日、牧野忠昌名誉館長と担当学芸員による展示解説を実施し、42人が参加しました。また、ひなまつりの日である3月3日にも臨時で展示解説を行いました。

展示協力・後援先等

本展は、越後長岡ひなものがたり実行委員会（事務局：長岡市商店街連合会）主催の第19回「越後長岡ひなものがたり」（令和8年2月13日～3月3日）に参加しました。

展示したひな人形・雛道具はすべて牧野忠昌名誉館長（旧長岡藩主牧野家17代）よりお借りしたものであり、展示構成や設営など多大なご協力をいただきました。また、牧野忠慈氏（同18代）からも設営に携わっていただきました。そして栃尾てまりを快く貸していただいた栃尾てまりの会の皆さまに記して感謝申し上げます。



（展示担当：歴史研究室 武藤真由）

令和7年度熱中！感動！夢づくり教育推進事業実施報告

長岡市では、子供たち一人一人の個性や能力を伸ばし、学ぶ意欲を引き出すことを目的に「熱中！感動！夢づくり教育推進事業」を実施しています。科学博物館では令和7年度は2事業を実施しました。また、寺泊水族博物

博物館の先生がやってきた

事業概要

当館の学芸員がそれぞれが得意とするテーマを中心にメニューを構成し、依頼のあった保育園・幼稚園や学校に訪れ、学習支援をする事業です。

今年度から新たに、小・中学校向け通常メニューに地学部門の「観察しよう長岡の地質」が加わりました。実物の岩石を手取る、または実際に地層を観察することで、教科書の写真を見るだけでは伝わらない情報を感じてもらおうことを目的としています。

実施プログラムと参加者数

部門	メニュー名	利用実績
地学	すなのじっけん	3園3件64人
	ひかりのじっけん	4園4件74人
	観察しよう長岡の地質	1校1件22人
植物	学校で楽しむ草木あそび	3校3件144人
歴史	しらべてみよう長岡の三傑	1校1件128人
民俗	さわってみよう昔の道具	1校1件56人
	オーダーメイド	1園17校 22件1,021人
合計8園23校35件1,509人		

実施内容

今年度は小学校の理科の単元「大地のつくりと変化」に対応した依頼が1件ありました。市内を流れる信濃川の河原で見られる石を博物館から持ちだし、それらを題材にした授業を実施しました。

石の種類をあえて伏せたまま観察し、自分で名前を付けてもらう実習では、色や模様、形から想像力豊かな名前を石に付けている様子が見られました。

その後、学芸員が用意した石の一覧表やインターネットに公開されている地質図を見ながら、石の正式な名前や地層の広がり、河原の石の起源について勉強しました。

自分の目で観察して書き出した言葉と、資料や地質図にある情報を照らし合わせることで、授業を受けた児童の中で新たな気づきが得られたことを期待します。

（科学博物館 学芸係）

館では「親子わくわく魚ランド」と「移動水族博物館」、馬高縄文館では「縄文体験・入門教室」と「縄文出前授業・体験学習」を実施しました。

バスで行く科博見学

事業概要

授業に科学博物館の見学利用を取り入れてもらえるように、長岡市内の小・中学校特別総合支援学校向けに、学校と博物館の間を市のバスで送迎します。また、来館時に学芸員が展示解説等、様々な形式での学習支援を行っています。

実施プログラムと参加者数

学年	人数	見学エリア	担当者	
小学校	3年	46人	長岡のおいたち 長岡のすがた 重要文化財 長岡藩主牧野家史料館	田中 武藤
中学校	1年	4人	長岡のすがた	鳥居
合計2校2件50人				

実施内容

総合学習でSDGsに取り組む中学校からの利用がありました。SDGsの17の目標の一つ「陸の豊かさを守ろう」をテーマに調べているグループが来館し、長岡市に生息する絶滅危惧種を守るための法律や条例、陸上動物の保全のための博物館の活動や市民活動について、インタビューや学習を行いました。インターネットを調べているだけでは気づかなかった視点や情報も見つけられたようで、担当の先生からは「生徒たちが躰いているところを解消してもらって、とても助かりました」と、感想をいただきました。

従来、クラス単位での利用が中心の本事業ですが、こうした調べ学習時のグループでの利用や部活動での利用にも対応しています。博物館も学校側が利用しやすい形を模索していますので、利用希望やご興味があれば、まずはぜひお気軽にご相談いただければと思います。

（科学博物館 学芸係）

博物館講座

展示概要

博物館講座は、令和7年度の新規事業です。6月から3月まで、さいわいプラザ1階の科学博物館交流室（第3回のみ中央公民館3B教室）を会場に開催しました。定員は15人（第3回のみ10組30人程度）です。

当館は、昭和26年（1951）の開館以来、郷土の自然や歴史、文化に関する専門的な調査・研究を行っています。本講座では、地学、植物、昆虫、動物、歴史、民俗、考古、文化財の8研究室の学芸員・職員と博物館長が講師をつとめ、調査・研究活動の成果を報告しました。

全10回（月1回開催）の参加者数の合計は230人で、平均は23人でした。期日、テーマ、講師（研究室）、参加者数の詳細は、本書の事業報告（11頁）を参照ください。

実施内容

今年度の講座の内容は、①調査・研究の成果や収蔵資料の紹介（第1・2・4・8・10回）、②企画展に関連した内容（第3・7・9回）、③『研究報告』に掲載した内容（第5・6回）に大別することができます。以下、開催順に各回（開催月、研究室名）の内容を紹介します。

第1回（6月、歴史）は、戦災（北越戊辰戦争、長岡空襲）と震災（中越地震、東日本大震災）に関する歴史資料を近現代史研究に活用する方法と課題を考えました。

第2回（7月、考古）は、縄文時代草創期の時代背景や土器の出現、小瀬が沢・室谷洞窟発見の経緯と発掘調査の概要、出土品の特色などを解説しました。

第3回（8月、昆虫）は、夏季企画展にあわせて、夏休み特別企画として、小学生とその家族を対象に、クワガタムシの飼育方法を紹介しました。

第4回（9月、植物）は、植物の実生（みしょう）に注目し、この時期だけの独特な形状で、進化の歴史が見られると言われていることなどを解説しました。



第1回（6月19日、交流室での講義）

第5回（10月、文化財）は、長岡市内で過去に調査が行われた須恵器窯を中心に、古代の土器生産について解説し、今後の調査・研究の課題と展望を紹介しました。

第6回（11月、地学）は、1cmほどのチャートれきに含まれる微小な化石から展開される地質学のつながりについて解説しました。

第7回（12月、民俗）は、栃尾地域で営業していた「おさべ菓子店」との出会いから秋季企画展の開催に至る過程を製法や道具の聞き取り調査の成果から紹介しました。

第8回（1月、動物）は、鳥が忌避する木と言われているヤマウコギを調査し、実際には、複数の鳥が本種果実を採食しにきていることを紹介しました。

第9回（2月、歴史）は、冬季企画展にあわせて、江戸時代の雛祭りの文化の歴史を紹介し、長岡城下や牧野家での様子をふまえて展示解説を行いました。

第10回（3月）は、博物館長が担当し、良寛と貞心尼との出会いから200年にあわせて、良寛についての貞心尼の功績と良寛示寂後の活動を考察しました。



第2回（7月17日、常設展示室での展示解説）

成果と課題

本講座の主な成果は、①自然科学と人文科学の双方のテーマを設定したことで、総合博物館としての当館の特徴をあらためて周知する機会になったこと、②講義と展示解説を組み合わせることで、さいわいプラザ1階の交流室と展示室の空間を有効に活用できたこと、③複数回参加する方が多く（第8回実施のアンケートでは17人中14人が4回以上の参加者）、平日午後の利用者のニーズを把握できたことなどです。

本講座を持続可能な事業として定着させるためには、今年度、来年度の開催状況をふまえて、回数、時間、定員、会場の設定などをあらためて検討していく必要があります。平日午後の博物館の新しい魅力の一つとなるように本講座を育てていくことは、今後の課題です。

（企画担当：学芸係 田中洋史、櫻井幸枝）

児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」

事業概要

児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」は、新潟県の児童・生徒が作った昆虫標本／岩石・化石標本／自然科学写真の各作品を集めた自然科学展示会です。標本作りや写真撮影を通して自然史学の基礎となる「自然を記録し、整理し、科学的に考察する力」の育成を目指しています。

作品は各分野の専門の審査員が個別に評価・コメントし、技術向上や研究のヒントを提案しています。優れた作品には金・銀・銅賞の各賞が、展示会の中で際立って

優れた作品には長岡市立科学博物館長賞が贈呈されます。

令和7年度出品状況

	作品数	出品者数		
		小	中	高
昆虫標本展	37	31	5	1
岩石・化石標本展	9	5	3	1
自然科学写真展	7	6	1	0
計	53	42	9	2

入賞作品一覧（銀賞以上／出品者名は省略）

昆虫標本展	魚沼市立広神東小学校	4年	魚沼のトンボ4年目～時刻における止水池のトンボの出方～	金賞
	新潟市立上所小学校	4年	昼行性と夜行性の甲虫の違い	金賞
	柏崎市立田尻小学校	5年	柏崎周辺のトンボとチョウ シーズン5	金賞
	新発田市立外ヶ輪小学校	2年	夜の明かりに集まるガ	銀賞
	南魚沼市立中之島小学校	5年	南魚沼市の水生半翅目	銀賞
	新潟市立亀田小学校	6年	新潟市のみでとれたチョウ	銀賞
	新潟市立亀田小学校	5年	新潟市のチョウ	銀賞
	新潟大学附属長岡小学校	6年	猛暑の3年間と昆虫の多様性	銀賞
	妙高市立新井中学校	2年	上越地区に生息するトンボ目の調査～トンボの種数と周辺環境の関係～	銀賞
岩石・化石標本展	長岡市立川崎小学校	2年	糸魚川で拾える石の標本	銀賞
	上越教育大学附属中学校	1年	くらべRocks II～糸魚川静岡構造線上の川にある岩石～	銀賞
	佐渡市立南佐渡中学校	1年	佐渡ジオパークの岩石標本	銀賞
自然科学写真展	魚沼市立広神東小学校	1年	オオシオカラトンボ たまごをちょんちょん	金賞
	佐渡市立真野小学校	2年	ぼくとかぶと虫の362日 かんさつのきろく	銀賞
	柏崎市立枇杷島小学校	3年	雲のかんさつ	銀賞
	佐渡市立松ヶ崎中学校	3年	イチモンジセセリとキアゲハ	銀賞

令和7年度は10月29日(水)から11月2日(日)にかけてさいわいプラザ大会議室で作品展示会を開催し、延べ402人が来場しました。最終日には各分野の審査員や学芸員から出品者と家族・教員を対象に「出品者向け講評会」を実施し、特筆すべき作品の紹介や次の作品作りに向けた総括的なアドバイスを行いました。また、夏休み期間には科学博物館展示室内で参考作品の展示を行いました。

今年度は昨年度と比較して、全体の出品数がやや増加する結果となりました。また、県内外の様々な地域をテーマにした作品が部門を問わず出品されたことが印象的でした。

科学博物館長賞となる作品は今年度は該当なしという結果になりましたが、審査会では来年度の受賞が期待できる作品が複数あったことが共有されました。

審査会で高い評価を得た作品の多くは「継続的な取り組みをしている」ことが共通点として挙げられます。

作品づくりを通して得られた経験や知識は、標本やレポートという形で皆さんの手元に確実に蓄積されていきます。始めたばかりの頃は知らなかったこと、出来なかったことも、専門家からのアドバイスを受けながら継続して取り組んだことで、今では自分のものとして身に付いているのではないのでしょうか。

次回の標本展に向けた準備を始めるにあたって、これまでの作品を見返してみることで、当時の自分では気づけなかった情報や新しいテーマが見えてくるかもしれません。

今後のさらなる研鑽と発展に期待します。

（地学研究室 高橋啓太）

ネイチャーセミナー

事業概要

「生きものを知るたび、“もっと知りたい”が見つかる」をキーメッセージに、生きものの生態や不思議を紹介する各種講座を開催しています。参加者の自然への関心と探究心を育むことを目的としており、特に「自然を観察し疑問を発見する力」の養育を目標にしています。

本年度は、かねてから数多く寄せられていた「大人向けの生きもの講座もつくってほしい」というリクエストに応え、“大人の生物倶楽部”と“Museum サロンーコネクト”が始動しました。これに伴い、ネイチャーセミナーは“生きものガイド”(子ども向け講座)、“ネイチャートーク”(リレー講演会)と併せて、4部構成での運営体制となりました。

活動初年度となる“大人の生物倶楽部”では、花の内部構造を観察するプログラム「花の解剖」を実施したほか、千秋が原ふるさとの森公園の活性化を目指す市民団体とタイアップし、「ようこそ！コウモリ Cafeへ」を開催しました。

また、地域の自然や生きものに関わる課題をテーマに、ゲストと学芸員がトークセッションを行う Museum サロンでは、「里山の未来」を初回テーマに開催しました。

実施プログラムと参加者数

生きものガイド			
プログラム	形式	実施日	参加者数(定員)
会えるかな？森のカエルたち	野外観察会	6月22日(日)	11人(8組)
作ろう、飛ばそう！タネもけい※	体験講座	7月6日(日)	12人(10組)
大人の生物倶楽部			
プログラム	形式	実施日	参加者数(定員)
花の解剖	屋内講座	5月31日(土)	10人(10人)
ようこそ！コウモリ Cafeへ※	野外観察会	7月26日(土)	20人(20人)
ふるさとの森サイエンスカフェ※	屋内講座	9月27日(土)	9人(10人)
ネイチャートーク			
トークテーマ	講師	実施日	当日参加者数(定員)
イカたちの恋のかけひき —柔軟で巧みな繁殖戦略—	東京大学大気海洋研究所 准教授 岩田容子	7月21日(祝月)	40人(40人)
オンライン配信 視聴回数 248回			
ウツと驚くカワウのくらし —魚を狩って、サギの威を借り—	埼玉県立自然の博物館 学芸員 本多里奈	1月24日(土)	31人(40人)
オンライン配信 視聴回数 324回			
なぜ新潟にブナ林が広がるのか？ —森がもっとおもしろくなるブナ林の秘密—	十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」 キョロロ学芸員 小林誠	3月7日(土)	59人(59人)
Museum サロンーコネクト			
トークテーマ	ゲスト	実施日	当日参加者数(定員)
里山の未来	未来里山技術機構 CEO 山本麻希	11月29日(土)	40人(40人)
合計 804人			

オンライン配信は、各回とも講演会終了後1ヶ月間の限定配信
※ジェラート雪鹿 FieldLovers と共催

生きものガイド

＜作ろう、飛ばそう！タネもけい＞

羽をもつタネが風で飛ぶ様子の観察と、その模型をつかって飛ばす実験から、風散布のしくみを考えました。まずは実験装置を使ってタネが回転しながら浮き上がっていく様子を観察しました。参加者からは、「面白い」「動物みたい」と声が上がっていました。次に各自で風散布のタネの模型をつかって飛ばし、本物のタネと同じ動きで飛ぶことを確認しました。形状の異なるタネ模型をい

くつつくって飛び方を観察し、種子散布の不思議を体感しました。

大人の生物倶楽部

＜ようこそ！コウモリCafeへ＞

昨年度実施した子ども向けイベント「探検！ナイトパーク」を大人向けにアレンジしたプログラムで、公園内のカフェを特別に夜間にも開けてもらい、日没時にこの公園の上空を通過して信濃川に採食にでかけるコウモリたちの様子をコーヒーフロート片手に観察しました。コウモリたちが障害物を避けたり、獲物となる昆虫を追いかけたりする際に出す超音波をバットディテクターで收音しながら、野外カフェを楽しみました。参加者は住宅地にある公園の上空をたくさんのコウモリが通過していく様子に驚きながら、普段聞くことができないコウモリたちの超音波に興味津々に耳を傾けていました。

「一緒に夜を楽しもう！」というキャッチコピーで募集したところ、すぐに満員となり、定員オーバーで参加できなかった方も多く出てしまいました。「来年もぜひ開催してください！」というリクエストも多数いただきましたので、次の開催を検討したいと思います。

ネイチャートーク

＜イカたちの恋のかけひき—柔軟で巧みな繁殖戦略—＞

当館では初となるイカをテーマとした普及活動で、イカたちの繁殖戦略をテーマにご講演いただきました。イカの基礎生態を紹介した後、エゾハリイカの墨を使った求愛行動、ヒメイカのメスを騙す繁殖戦略、ヤリイカのオスに見られる2つの繁殖戦略等を解説していただきました。

海中で繰り広げられるイカたちの複雑な恋のかけひきは、参加者にたくさんの不思議と驚きを与えてくれ、会場からはたくさんの質問が挙がりました。



大人の生物倶楽部「ようこそ！コウモリ Cafeへ」

(動物研究室 鳥居憲親)
(植物研究室 櫻井幸枝)

長岡れきしまち歩き

事業概要

地域に残る昔の長岡の様子を描いた絵画や地図を題材に、歴史や民俗を学ぶ勉強会とまち歩きを開催しています。本事業は、座学だけでなく実際にまちに出て資料と照らし合わせながら観察することで、市民がより身近に長岡の歴史や文化を感じ、関心を深めることを目的としています。今年度も昨年度に続き、新潟県指定文化財「雪之図」を題材としました。「雪之図」は長岡藩お抱え絵師・飯島文常が描き、文人・木宮磐根が文を添えた全2巻の巻子で、江戸末期の長岡城下の雪中の様子が生き生きと表されています。今年度は11月1日にまち歩き、15日に勉強会を予定していましたが、まち歩きは雨天により中止となりました。勉強会は予定通り開催し、16名が参加しました。

実施内容

勉強会では、民俗分野は、館所蔵の積雪期用具の収集経緯や分類、観察のポイントを紹介し、雪靴やカンジキなどの民具を実際に手に取れるコーナーも設けました。歴史分野は、『越後名寄』をはじめ江戸時代の資料から雪に関する記述を紹介し、雪の表現、雪害など当時の人びとが「雪」をどのように認識していたかを探りました。参加者からは民具の使い方や「雪之図」の描写に関する質問が多く寄せられ、関心の高さがうかがえました。一方で、まち歩きが中止となったことを惜しむ声もあり、実際に現地で歴史を体感できることを参加者が楽しみにしていたのだと実感しました。

今年度は天候不良によりまち歩きを実施できなかったことが課題として残りました。来年度は、雨天でも開催できるよう予備日を設けるなど実施体制を見直し、「雪之図」に描かれた風景と現代の長岡を実際に歩きながら味わっていただけるような機会を準備できればと考えています。



勉強会

（歴史研究室 武藤真由）
（民俗研究室 加藤穂乃佳）

潜入!ナイトミュージアム

事業概要

科学博物館常設展示の新たな魅力創出を目的として、閉館後の展示室内を活用した普及活動です。照明を落とし、暗幕をつけた館内を学芸員の案内のもと見学を行いました。本年度は小学生を対象として募集し、夏休み期間中の2日間、各日18時30分から19時30分の1時間実施しました。

実施内容

①7月25日(金)

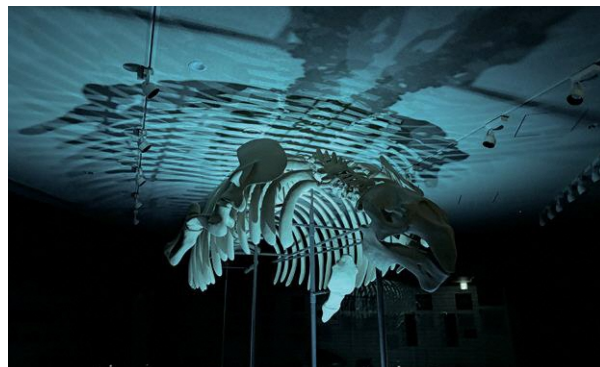
歴史	博物館に鬼?ちょっと怖い絵
地学	海牛を照らしてみると…?

②8月22日(金)

民俗	御用だ!!“がんどう”を使って謎解き!
昆虫	夜の昆虫観察

1回目は小学生3人、幼児1人、大人3人の計7人が参加。学芸員が懐中電灯を持って展示室全体を解説したのち、参加者にも懐中電灯を配布し、自由見学、写真撮影を行いました。歴史研究室は「鬼子母神像」ほか3点を特別展示。地学研究室は海牛の復元骨格標本をライトで照らしてシルエットを壁に投影させながら、海牛の生態や進化、言い伝えなどについて解説しました。

2回目は小学生9人、幼児2人、大人9人の計20人が参加。民俗研究室は照明道具“がんどう”を解説し、3Dプリンターで製作した模型を参加者に配布して実際に照らしながら展示室内で謎解きに挑戦。昆虫研究室はさいわいプラザ前の植え込みでセミを観察し、その後エントランスのカブトムシ等の生体展示を見学しました。



海牛の復元骨格標本ライトアップ

（歴史研究室 武藤真由）
（地学研究室 高橋啓太）

令和7年度事業報告

1 利用者数

月	科学博物館					長岡藩主牧野家史料館					入館者 月計	イベント 参加者		資料照会		利用者 数合計
	個人入館		団体入館		入館者 合計	個人入館		団体入館		入館者 合計		大人	子ども	大人	子ども	
	大人	子ども	大人	子ども		大人	子ども	大人	子ども							
4	1,055	431	0	6	1,492	258	48	0	0	306	1,798	313	10	74	2	2,197
5	1,438	540	18	11	2,007	433	78	18	0	529	2,536	142	358	61	2	3,099
6	1,276	469	71	99	1,915	293	48	10	0	351	2,266	416	231	59	6	2,978
7	4,286	2,117	24	248	6,675	347	97	0	0	444	7,119	387	263	74	33	7,876
8	4,572	2,930	17	511	8,030	584	194	17	0	795	8,825	190	37	80	53	9,185
9	2,208	1,258	58	265	3,789	345	62	103	12	522	4,311	185	244	81	31	4,852
10	1,647	480	105	132	2,364	321	41	26	110	498	2,862	523	327	67	22	3,801
11	2,312	747	44	24	3,127	652	158	11	0	821	3,948	490	462	63	13	4,976
12	1,259	403	19	33	1,714	232	18	0	0	250	1,964	20	33	48	6	2,071
1	839	330	14	0	1,183	197	35	0	17	249	1,432	63	136	41	7	1,679
2	1,904	495	36	33	2,468	593	89	38	25	745	3,213	26	104	37	7	3,387
3	2,238	534	27	111	2,910	896	108	27	38	1,069	3,979	191	39	49	5	4,263
累計	25,034	10,734	433	1,473	37,674	5,151	976	250	202	6,579	44,253	2,946	2,244	734	187	50,364

2 常設展示

エリア		展示内容
市民ホール		ヒドロダマリス属海牛親子生体復元模型、 長岡市地図サークル、文化財検索モニター
展示室	長岡のおいたち (考古・文化財・歴史)	発掘された長岡、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代（飛鳥・奈良・平安）・ 中世（鎌倉・室町・安土桃山）、中世（戦国）・ 近世（江戸）・近現代、長岡の教育、その他（歴史年表）
	長岡の大地のおいたち（地学）	長岡が海だったころ、海牛のいた海、海から陸へ、地震地盤災害と地殻変動
	長岡のすがた—自然と暮らし— (植物・動物・昆虫・民俗)	長岡の自然—山間部・平野部・海岸部—、地域で生まれる生き物たちの変異、 山間部・平野部・長岡の日々の暮らし—衣食住—
	重要文化財・受贈資料	東北日本の積雪期用具附改良形用具、室谷洞窟遺跡出土品、長岡誓女、 小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土品、牧野恭次氏収集シダ植物標本、 村山 均貝類コレクション、南極の岩石、ユキヒョウ

3 企画展、関連イベント

タイトル	会期（開催日数）	入場者数
「長岡藩主牧野家ゆかりの端午の節句展」（牧野家史料館）	4月22日～5月25日（32日）	538人
企画展「令和7年度 収蔵資料展—初公開資料を中心に—」	4月26日～6月22日（54日）	3,886人
関連イベント「ギャラリートーク」	4月29日、5月18日、 6月7日（3日）	64人
特別展示「松平定信の娘・壽子が描いた月」（牧野家史料館）	7月8日～9月21日（73日）	1,585人
企画展「長岡カブト・クワガタ学」	7月12日～9月15日（64日）	16,885人
企画展「なつかしのおかしとおさべ菓子—おかしにつまった栃尾の思い出—」	10月25日～12月27日（60日）	5,488人
関連イベント①見学会「職人の技が光る！巻鯛作りを見学しよう！」	11月3日	22人
関連イベント②ギャラリートーク	11月8日	20人
関連イベント③ギャラリートーク	11月29日	13人
「長岡藩主牧野家ゆかりのお正月展」（牧野家史料館）	12月16日～1月25日（31日）	356人
企画展「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展—極小・雑道具の魅力—」	2月13日～3月15日（30日）	3,646人
関連イベント「牧野家ゆかりのミニおひなさま展」（牧野家史料館）	2月9日～3月15日（34日）	1,532人
関連イベント「ギャラリートーク」	3月1日	42人

4 博物館講座 (全 10 回)

期 日	演 題	講師 (研究室名)	参加者数
6月19日	戦災と震災の歴史学—近現代の長岡を歩く—	田中 洋史 (歴史)	19人
7月17日	縄文文化の起源をさぐる—科博所蔵の重要文化財から—	小熊 博史 (考古)	24人
8月16日	クワガタムシを飼ってみよう	星野光之介 (昆虫)	28人
9月18日	草木の命の始まり—実生 (みしょう) を楽しむ—	櫻井 幸枝 (植物)	14人
10月16日	古代長岡の土器生産—須恵器窯を中心に—	山賀 和也 (文化財)	19人
11月20日	プランクトンの化石から考える長岡の地史2億年	高橋 啓太 (地学)	20人
12月18日	なつかしのお菓子とおさべ菓子店—おかしにつまった栃尾の思い出—	加藤穂乃佳 (民俗)	17人
1月15日	どんな鳥がヤマウコギを採食しているのか？ —果実を通してみる鳥と植物の関係性—	鳥居 憲親 (動物)	17人
2月19日	牧野家と長岡のおひなさま	武藤 真由 (歴史)	22人
3月19日	貞心尼の真実—良寛との出会いから 200 年—	金垣 孝二 (博物館長)	50人
合計 230 人			

5 各研究室主催の普及活動

研究室	事業名	実施日	会場	参加者数
植 物	キノコを調べる会	10月18日	悠久山公園	45人
	キノコの展示会	10月19日	市民ホール	229人
動 物	市民探鳥会	6月14日、7月12日、8月9日、 9月13日、11月8日 ※4月は林内の積雪のため中 止。5月、10月は雨天のため 中止。	東山ファミリーランド 自然観察林	130人 (各回25、36、25、 20、24)
	冬鳥さよなら探鳥会	3月21日	信濃川河川敷	49人
歴 史	つくって飾ろう！しめ縄づくり	10月25日	北越戊辰戦争伝承館	8人
文 化 財	髪結い@長谷川邸	6月8日	長谷川邸	80人
	長岡市郷土民俗芸能公演会	10月26日	アオーレ長岡	105人
	古代のお金づくりに挑戦！	3月14日	道の駅良寛の里わしま 和らぎ家	16人
受 付 ス タ フ	夏のかはくミニクラフト	7月23日、8月6日	市民ホール	107人
	かはくミニクラフト	4月9日、5月14日、6月11日、 7月9日、9月10日、10月8日、 11月12日、12月10日、1月14日、 2月12日、3月11日	市民ホール	286人 (各回56、55、11、 6、18、38、18、32、 9、15、28)

6 熱中！感動！夢づくり教育事業

- (1) 博物館の先生がやってきた
実施件数延べ 35 件、参加者数延べ 1,509 人
- (2) バスで行く科博見学
実施件数 2 件、参加者数延べ 50 人
- (3) 親子わくわく魚ランド
実施件数 10 件、参加者数延べ 78 人
- (4) 移動水族博物館
実施件数 1 件、参加者数延べ 41 人

(5) 縄文体験・入門教室

実施回数 3 回、参加者数延べ 54 人

(6) 縄文出前授業・体験学習

実施件数 38 件、参加者数延べ 1,135 人

7 児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」

「自然科学写真展」(詳細は 7 ページ)

会 期：10 月 29 日～11 月 2 日 (5 日間)

会 場：さいわいプラザ 6 階 大会議室

出 品：53 件
入場者数：402 人

8 ネイチャーセミナー (詳細は8ページ)
実施回数：9回、参加者数延べ804人

9 長岡れきしまち歩き (詳細は9ページ)
実施回数：1回、参加者数延べ16人

10 潜入！ナイトミュージアム (詳細は9ページ)
実施回数：2回、参加者数延べ27人

11 中学生の職場体験受け入れ
受け入れ件数13件、受け入れ生徒数延べ33人
科学博物館：1件2人
悠久山小動物園：8件17人
寺泊水族博物館：2件6人
馬高縄文館：2件8人

12 博物館実習の受け入れ
期間：8月5日～11日(7日間)
会場：科学博物館会議室等
実習生の所属：長岡造形大学1人、新潟産業大学1人、明治大学1人、東京農業大学1人、国士館大学1人

13 依頼による普及活動 (長岡市内の小・中学校からの依頼を除く)

- ・ さわやか悠久大学「良寛と貞心尼」講師、8月4日、金垣館長
- ・ 長岡空襲80年特別企画事業「教育版マイクラフトで長岡空襲の史実と復興の軌跡を学ぼう」講師、8月10日、金垣館長
- ・ 地と雪の恩恵体感ツアー セミナー「雁木と消雪パイプについて」講師、2月18日、金垣館長
- ・ 富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会 令和7年度総会講演会「新潟県中越地震・東日本大震災と地域史研究・史料保存—長岡市の取り組みを中心に—」講師、5月15日、田中総括副主幹
- ・ 長岡観光ボランティアガイドの会研修会講師、5月31日、田中総括副主幹
- ・ 長岡郷土史研究会「この指とまれの企画展展示解説会「科学博物館 令和7年度収蔵資料展」を楽しむ」講師、6月9日、田中総括副主幹、武藤学芸員
- ・ 長岡市歴史文書館 古文書解説講座「古文書のいろは」第2回「江戸時代の村と人びとの暮らし～「朝日百塚」に関する古文書をよむ～」講師、6月11日、田中総括副主幹
- ・ 新潟県退職女性教職員の会 学習会「小林虎三郎と「米百俵の精神」～北越戊辰戦争からの復興と近代化～」講師、6月17日、田中総括副主幹
- ・ 阿賀野市立吉田東伍記念博物館『越佐史料』刊行開始100年記念特別講座「高橋義彦と『越佐史料』」第1回「東伍の弟・義彦と新潟県の郷土史研究」講師、8月9日、田中総括副主幹
- ・ 千手地区福祉会・メンズクラブ千手 福祉講演会「戦後80年～千手の昭和史を歩く～」講師、8月21日、田中総括副主幹
- ・ あうたび合同会社 企画ツアー「乾杯から始めよう！発酵と醸造の町で人々と出会い暮らしに触れる旅」講師、8月30日、田中総括副主幹
- ・ 新潟県埋蔵文化財センター「令和7年度キッズ考古学教室」展示・遺跡解説、8月6日、小熊総括主査
- ・ 新潟県自然観察指導員の会総会記念講演会と里山フィールドミュージアム散策講師、4月5日、櫻井主査
- ・ 中之島公民館高齢者講座「里山歩き」講師、4月23日、10月22日、櫻井主査
- ・ 山口育英奨学会「春の遊歩道散策・植物観察会講師」、4月26日、櫻井主査
- ・ こしじ水と緑の会里山自然講座「秋の草花」講師、9月6日、櫻井主査
- ・ 長岡きのこ同好会植物研修会講師、9月7日、櫻井主査
- ・ 見附市北谷公民館・耳取遺跡FANCULB事業「秋の耳鳥山自然観察」講師、10月4日、櫻井主査、鳥居主査
- ・ 長岡きのこ同好会、新潟キノコ同好会、群馬県野生きのこ同好会合同研修会講師(植物)、11月9日、櫻井主査
- ・ 国際自然環境アウトドア専門学校講義「博物館収蔵標本から見る地域の生物相の記録とその活用方法」講師、1月16日、櫻井主査、鳥居主査
- ・ 新潟県愛鳥モデル校事業講師、4月19日、5月9日、15日、11月12日、11月28日、鳥居主査
- ・ 国営越後丘陵公園里山フィールドミュージアム春のバードウォッチング講師、4月29日、鳥居主査
- ・ 見附市大平森林公園初夏の野鳥観察会講師、5月11日、鳥居主査
- ・ まちなかキャンパス長岡こども大学「野鳥観察のキホンと羽根ペンづくり」講師、7月13日、20日、27日、鳥居主査
- ・ 長岡野鳥の会新春放談会「講演：鳥止まらず(ヤマウコギ)に鳥は来るのか？—果実を通してみる鳥と植物の関係—」、2月1日、鳥居主査
- ・ 長岡造形大学教養科目「長岡学」講師、4月22日、星野主任
- ・ 長岡地域理科教育センター「昆虫採集・標本づくり体験教室」講師、6月28日、7月5日、7月26日、星野主任
- ・ 長岡市教育センター研修講座「長岡地域の自然Ⅱ ～秋の昆虫～」講師、10月9日、星野主任

- ・まちなかキャンパス長岡 ボランティア企画講座「知って楽しい長岡―栃尾地域の歴史と文化を学ぶ―」講師、6月21日、7月5日、武藤学芸員
- ・さわやか悠久大学「信濃川の舟運と長岡船道」講師、7月14日、武藤学芸員
- ・ミライエクリエイティブキッズ「江戸時代の本にふれよう！―和綴じのミニ本づくり―」講師、8月11日、武藤学芸員
- ・長岡社会科サークル定例会「学校における博物館資料の活用―触れて感じる歴史体験―」講師、9月3日、武藤学芸員
- ・歴史文書館「古文書に見る長岡のすがた」講師、9月24日、武藤学芸員
- ・深才コミュニティセンター文化講演会「昭和100年・戦後80年 深才地区の「戦争」」講師、10月11日、武藤学芸員
- ・見附高等学校 歴史講演会「見附と戊辰戦争」講師、10月22日、武藤学芸員
- ・長岡市消費者協会「栃尾のおかしとおさべ菓子店―粉菓子に見る地域の記憶―」講師、3月13日、加藤学芸員
- ・長岡地域理科教育センター「長岡地域の自然Ⅰ～信濃川に見られる岩石～」講師、7月2日、高橋学芸員
- ・越路支所「令和7年度わんぱく教室 越路の川について学んでみよう」講師、11月8日、高橋学芸員
- ・吉田東伍記念博物館「阿賀野のあけぼの part Ⅲ ―地質学から見た阿賀野の成り立ち―」講師、11月9日、高橋学芸員
- ・中之島観光協会「守ろう、活かそう「文化財」～歴史文化の使い方～」講師、5月26日、鳥居係長
- ・令和7年度新潟県市町村等文化財専門職員研修「中越地震後の文化財防災対策と実際」講師、2月9日、鳥居係長
- ・中条公民館「浅野赤城と武石弘三郎―中之島の芸術家たち」講師、9月23日、小林総括主査
- ・和島の宝地域づくりネットワーク会議「古代の人びとの暮らし 和島地域の遺跡と八幡林遺跡」講師、12月18日、丸山主査

14 審議会、協議会等への出席 (市区町村の記載がないものは長岡市内で実施)

- ・新潟県博物館協議会総会、新潟市、4月23日、金垣館長
- ・信濃川火焰街道連携協議会総会 (縄文サミット) 三条市、6月2日、金垣館長、小林総括主査、小熊総括主査
- ・北信越博物館協議会・日本博物館協会北信越支部総会・研究協議会、富山県高岡市、6月5日～6日、金垣館長
- ・令和7年度全史協北信越地区協議会総会・研修会、石川県小松市、7月10日～11日、山賀主査

- ・牧野公奉賛会定期総会、7月26日、金垣館長
- ・史跡指定に向けた発掘調査指導助言、柏崎市、8月7日、小熊総括主査
- ・第1回新潟県文化財保護審議会、新潟市、8月8日、小熊総括主査
- ・新潟県野生生物保護対策検討会 (昆虫類分科会)、新潟市 (オンライン参加)、8月20日、3月23日、星野主任
- ・長岡藩士殉節弔霊祭、福島県会津若松市、9月9日、金垣館長
- ・第1回史跡長者ヶ原遺跡保存活用計画策定委員会、糸魚川市、2月5日、小熊総括主査
- ・第2回新潟県文化財保護審議会、新潟市、2月16日、小熊総括主査

15 学会、研究会等への出席 (市区町村の記載がないものは長岡市内で実施)

- ・日本考古学協会2025年度新潟大会 (公開講演会、研究発表分科会等)、新潟市、10月25日～26日、小熊総括主査、丸山主査、加藤主査
- ・第3回「フィールドの植物学」研究発表会、新潟市、11月9日、櫻井主査、鳥居主査
- ・新潟県植物同好じねんじょ会研究発表会、新潟市、3月22日、櫻井主査
- ・バードリサーチ鳥類学大会2025(オンライン)、12月12日～13日、鳥居主査、櫻井主査
- ・第15回トレハロース含浸処理法研究会、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館、12月13日、加藤主査

16 委員等の委嘱業務

- ・新潟県文化財保護審議会委員、小熊総括主査
- ・糸魚川市長者ヶ原遺跡保存活用計画策定委員会委員、小熊総括主査
- ・新潟県環境審議会委員、櫻井主査
- ・国土交通省北陸地方整備局河川環境保全モニター、鳥居主査
- ・新潟県環境審議会委員、鳥居主査
- ・新潟川河川整備計画流域協議会委員、鳥居主査
- ・国土交通省北陸地方整備局河川水辺の国勢調査アドバイザー (信濃川河川事務所、信濃川下流河川事務所、三国川ダム管理所：陸上昆虫類)、星野主任
- ・新潟県野生生物保護対策検討会 (昆虫分科会) 委員、星野主任
- ・新潟県祭り・行事等総合調査調査員、加藤学芸員

17 館外施設への展示協力

- ・企画展「縄文土器入門～縄文土器の特色をさぐる」、会場：馬高縄文館、会期：4月12日～8月24日、入場者数：3,866人、小林総括主査、小熊総括主査
- ・特別コーナー展示「昆虫標本展示」、会場：中之島地

域図書館、会期：8月1日～30日、星野主任

- ・特別展「火炎土器と三十稲場式土器—長岡と十日町周辺の様相—」、会場：馬高縄文館、会期：9月20日～11月3日、入場者数：1,366人、小林総括主査、小熊総括主査、新田主査
- ・追悼展示「長岡出身の考古学者・小林達雄—その功績と長岡との関わり—」、会場：馬高縄文館、会期：10月7日～12月27日、入場者数：1,443人、小林総括主査、小熊総括主査
- ・中央公民館作品展「ミニクラフト」展示、会場：さいわいプラザ中ホール、会期：11月8日～9日、櫻井主査
- ・企画展「縄文石器入門～縄文石器の特色をさぐる」、会場：馬高縄文館、会期：11月22日～3月8日、入場者数：697人、小林総括主査、小熊総括主査

18 出版物

- | | |
|---------------------------|--------|
| (1) 長岡市立科学博物館報 (NKH) 110号 | 180部 |
| (2) 長岡市立科学博物館研究報告第61号 | 300部 |
| (3) 長岡市内遺跡発掘調査報告書 | 200部 |
| (4) 長岡・新潟のカブトムシ&クワガタムシ | 1,000部 |

19 長岡市立科学博物館研究報告第61号目次

- ・高橋啓太・笹川一郎・加藤正明・岸田悠作 長岡市妙見町の鮮新—更新統白岩層より産出したヒドロダマリス属海牛化石肋骨の骨肥大硬化
- ・星野光之介・山屋茂人 湯沢町大峰の冷温帯二次林の甲虫相
- ・小林徳 遺跡地図情報～基礎情報としてのGISの整備と利用～
- ・山賀和也 長岡市笹山窯跡出土須恵器の検討
- ・新田康則 寺村光晴による新潟県縄文土器研究の考察 I—中期中～後葉土器編年研究について—
- ・加藤由美子 幕末の輸送船「順動丸」に関するロイド船級協会調
- ・加藤穂乃佳 企画展「なつかしのおかしとおさべ菓子店—おかしにつまった栃尾の思い出—」展示報告
- ・武藤真由 越後長岡藩預地にかかる藩主巡見について

20 外部刊行物・論文誌等への執筆

- ・「資料に見る貞心尼(二)—良寛の里美術館所蔵資料から考察する—」長岡郷土史第62号、pp.59-64、長岡郷土史研究会、金垣館長
- ・富史料協 講演(要約)「新潟県中越地震・東日本大震災と地域史研究—史料保存—長岡市の取り組みを中心に—」、『富史料協会報』第25号、p.3-4、富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会、田中総括副主幹
- ・「新潟縄文研究事情—考古学史を振り返る—」、『越佐から見た列島の交流と地域社会』日本考古学協会2025新潟大会研究発表資料集、pp.3-14、日本考古学協会

2025新潟大会実行委員会、小熊総括主査

- ・「追悼 考古学者・小林達雄先生」、『長岡高校同窓会会報 三葉柏』第85号、p.13、小熊総括主査
- ・「新潟県に漂着したギガシフォン (*Gigasiphon*) の種子とその発芽」、漂着物学会誌Vol.22、pp.21-22、漂着物学会、櫻井主査
- ・「地上に落ちたトチバニンジン *Panax japonicus* の種子はアカネズミ属に消費される」、地域自然史と保全47(1)、pp.49-56、KONC、鳥居主査、櫻井主査
- ・「生きものはつながっている(イソヒヨドリ)」、私たちの自然、Vol.67. No.663、pp.12-13、日本鳥類保護連盟、鳥居主査
- ・「阿賀町で採集された巨大ヒラタクワガタの正体について」越佐昆虫同好会報、第133号、pp.68-69、越佐昆虫同好会、星野主任
- ・「ルリボシカミキリの長岡市からの記録」越佐昆虫同好会報、第133号、p.69、越佐昆虫同好会、星野主任
- ・「展覧会へようこそ 企画展『なつかしのおかしと刑部菓子店—おかしにつまった栃尾の思い出—』」、新潟日報、2025年12月9日、新潟日報社、加藤学芸員
- ・「越後古志地域の様相」、『越佐から見た列島の交流と地域社会』日本考古学協会2025年度新潟大会資料集、pp.361-368、日本考古学協会2025年度新潟大会実行委員会、丸山主査
- ・「地元で守る文化財! 幕末の輸送船「順動丸シャフト」の保存処理」、『越佐から見た列島の交流と地域社会』日本考古学協会2025年度新潟大会資料集、p.460、日本考古学協会2025年度新潟大会実行委員会、加藤主査

21 調査研究、資料収集活動(市区町村の記載がないものは長岡市内で実施)

- ・越後関係石器図巻の調査(科研費助成事業・奨励研究)、東京都文京区、7月31日、小熊総括主査
- ・越後関係石器図巻の調査(科研費助成事業・奨励研究)、奈良県天理市、11月10日～12日、小熊総括主査
- ・越後関係石器図巻の調査(科研費助成事業・奨励研究)、三重県伊勢市、12月3日～5日、小熊総括主査
- ・越後関係石器図巻の調査(科研費助成事業・奨励研究)、秋田県大館市、12月23日～24日、小熊総括主査
- ・越後関係石器図巻の調査(科研費助成事業・奨励研究)、大阪府吹田市、2月12日～13日、小熊総括主査
- ・越後関係石器図巻の調査(科研費助成事業・奨励研究)、東京都千代田区、2月21日、小熊総括主査
- ・海浜植物・菌類調査、上越市他、6月～11月、櫻井主査
- ・トチバニンジンの分布に関する調査、五泉市、8月、櫻井主査
- ・低海拔地ブナ林調査、10月2日、櫻井主査
- ・菌従属栄養植物分布調査、刈羽村、11月20日、櫻井主査

- ・信濃川河川敷における特定外来種分布調査、十日町、燕市ほか、4月～6月、鳥居主査、櫻井主査
- ・信濃川におけるセキレイ3種の分布調査(長岡野鳥の会との協同調査)、4月～6月、鳥居主査
- ・トチバニンジンの種子散布者に関する調査、津南町、7月～10月、鳥居主査、櫻井主査
- ・小諸における長岡藩および藩主牧野家関連資料調査、長野県小諸市、12月16日～17日、武藤学芸員

22 資料の受贈 (敬称略)

地学資料

- ・ゾウ科マムサス属幼体下顎化石 1点
長岡市 廣井 洋介

動物資料

- ・ニホンイトヨ 1点
新潟市 渡辺 晃史

考古資料

- ・長岡市三十稲場遺跡他採集の遺物類 一式
長岡市 小山 一郎

歴史資料

- ・宮大工・河合國作関係図面 31点
長岡市 河合 宏明
- ・長谷川医学関係資料追加 169点
東京都杉並区 長谷川 玲
- ・松岡譲題 宮内悠鈞会優勝旗 1点
長岡市 酒井 洋
- ・牧野彝(清簾院)作 押絵雛 13点
東京都豊島区 鶴田美佐子

民俗資料

- ・山口屋の製菓道具 一式
長岡市 宮沢けい子
- ・長岡地区鮮魚小売組合公休日看板 1点
山形県天童市 山口 初江
- ・養蚕・製糸・染織に関する資料 一式
長岡市 桃澤ハナイ
- ・真綿・絹糸 一式
長岡市 諏佐 正彦
- ・着物 一式
長岡市 土田 実

23 日本遺産「『なんだ、コレは!』信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」の取組み

- ・日本遺産共通チラシの編集、文化遺産カード配布、展示パネルの追加設置など、学芸WG業務の実施等
- ・ながおか米百俵フェスにて「日本遺産・火焰土器」出展、国営越後丘陵公園、5月24日～25日
- ・長岡まつり観光ふれあい広場へのWS「日本遺産・火焰土器」出展、アオーレ長岡、8月2日
- ・GREEN EXPO2027プレシンポジウム×日本遺産「なんだ、コレは!」への協力、新潟日報メディアシップ、

- 11月2日
- ・観光サテライトトリレー展示への参画、撰田屋6番街発酵ミュージアム・米蔵、1月7日～2月5日
- ・アートなHENTAI万博「火焰土器・縄文文化」体験ブースの出店、アオーレ長岡、2月8日
- ・第18回縄文楽検定の開催、馬高縄文館、3月1日
- ・縄文カムバックサーモン事業の実施、柿小学校、3月17日
- ・日本遺産ガイド合同交流研修会への協力、さいわいプラザ、3月22日

24 開発に伴う埋蔵文化財調査

- ・中沢丸山塚、確認調査(土砂採取、水田整備事業)、4月21日～22日、丸山主査
- ・加津保地区、試掘調査(市道建設事業)、4月23日、丸山主査
- ・中之島地区、試掘調査(産業団地整備事業)、11月4日～11月15日、小林総括主査
- ・大河津分水路河川敷、試掘調査(大河津分水路低水路掘削)、12月10日～12日・3月12日～16日、加藤主査
- ・寺泊求草地区、試掘調査(ライスセンター建設)、1月16日、加藤主査

25 委員会・審議会の開催

(1) 長岡市馬高・三十稲場遺跡整備活用委員会

委員(敬称略)

- ・学識経験者
安藤 孝一 小野 昭 小林 達雄
宇賀田和雄
- ・市民代表
星野 紀子 渡辺 千雅

(2) 長岡市文化財保護審議会

委員(敬称略)

- 田中 和代 鳴海 忠夫 西田 泰民
- 長谷川一夫 羽鳥 仁一 平山 育男
- 深澤三枝子 星野 紀子 三富 良晴
- 山田 祐紀

委員会の開催

- 第1回 9月5日 教育委員会会議室
- 第2回 3月4日 中央公民館3A教室

(3) 長岡市文化財保存活用地域計画策定協議会

委員(敬称略)

- 飯島 康夫 坂井 秀弥 田中 聡
- 平山 育男 新野 義弘* 西山 拓**
- 松井 富栄 宮下 敦 佐藤 敏明
- 小林 雅典 萬歳 真紀 中村真理子
- 岩本 操 野澤 由香 有賀 伸幸
- 佐藤 陽子

*:～9月 ** :10月～

委員会の開催

第5回 7月1日 教育委員会会議室
 第6回 10月14日 教育委員会会議室
 第7回 2月24日 教育委員会会議室

会計年度任用職員 鎌田美穂子
 会計年度任用職員 田中 智子
 令和8年3月31日付退職
 会計年度任用職員 五十嵐かおる
 館長補佐 神保亜由美
 令和7年3月31日転出

26 所管した共催・後援事業

(1) 親子で遊べる昆虫観察ウォーク／親子で遊べる昆虫

観察ウォーク中級編

主催：昆虫はかせネットワーク

会期：4月～11月

場所：馬高縄文館、藤橋歴史の広場ほか

(2) 第20回長岡民話百物語

主催：長岡民話の会

会期：10月24日～25日

場所：アオーレ長岡

(3) 第19回越後長岡ひなものがたり

主催：越後長岡ひなものがたり実行委員会

会期：2月13日～3月3日

場所：長岡市大手通り周辺及び市内各所

27 名誉館長 特別授業・講演等 (市区町村の記載

がないものは長岡市内で実施)

・「越後長岡藩と牧野家の歴史」、5月15日、上川西コミュニティセンター

28 職員名簿

名誉館長 牧野 忠昌

館長 金垣 孝二

館長補佐 五井 篤也

令和7年4月1日転入

総括副主幹 田中 洋史 (歴史研究室)

(学芸係事務取扱)

総括主査 小熊 博史 (考古研究室)

主査 櫻井 幸枝 (植物研究室)

主査 鳥居 憲親 (動物研究室)

主任 星野光之介 (昆虫研究室)

学芸員 武藤 真由 (歴史研究室)

学芸員 高橋 啓太 (地学研究室)

学芸員 加藤穂乃佳 (民俗研究室)

会計年度任用職員 上村 利明

文化財係長 鳥居 美栄 (文化財研究室)

総括主査 小林 徳 (文化財研究室)

主査 新田 康則 (文化財研究室)

主査 丸山 一昭 (文化財研究室)

主査 加藤由美子 (文化財研究室)

主査 山賀 和也 (文化財研究室)

主任 吉田 聖良

主事 村山 葵衣

会計年度任用職員 中山佐和子

会計年度任用職員 八子 幸栄

会計年度任用職員 茨木美代子

NKH（長岡市立科学博物館報）No.110

令和8年3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940-0084 長岡市幸町2丁目1番1号

印刷 株式会社 中央印刷

〒940-0041 長岡市学校町1-9-21